

ACANTHUS NEWS



平成16年 2004.4

月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第89号

TOP NEWS

国立大学法人金沢大学スタート



1日午前に行われた第1回教育研究評議会で議案を説明する林学長＝事務局大会議室

本学は4月1日、理事らへの辞令交付後、役員会、教育研究評議会、経営協議会、学長選考会議を開催し、諸規則等を制定、国立大学法人金沢大学として新たなスタートを切った。

一連の会議を終えて記者会見した林勇二郎学長は、「環日本海側の基幹大学として、教育、研究、社会貢献の責務を果たしていく。法人化によって何が変わるかではなく、どう変えるかが大切。社会のための大学として、存在意義を問い質したい」と抱負を述べた。

国立大学法人金沢大学の舵取りを行う役員メンバー
前列左から、中村信一理事（財務担当）、林学長、
渡邊洋宇理事（病院担当）
後列左から、朝倉信裕理事（総務・人事担当）、
大村明雄理事（研究・国際担当）、橋本哲哉理事（情報担当）、
鹿野勝彦理事（教育担当）



大学憲章決まる

大学憲章

人類は長い歴史の中で、創造と破壊を繰り返しながらも自然及び社会の諸現象に対する理解を深め、公共性の高い文化を育んできた。学術研究を預かる大学は、知の創造と人材の育成をもって世代を繋ぎ多様な社会の形成と発展に貢献してきた。そして今や世界は国家の枠を越え多くの人々が地球規模で協同する時代を迎えている。

前身校の歴史を引き継ぎ1949年に設立された金沢大学は、戦後の激動の時代を歩み、我が国と世界の発展に一定の役割を果たしてきたが、国立大学法人となるこの機会に、「社会のための大学」とは何であるかを改めて問い質さねばならない。

金沢大学は、本学の活動が自然・人間と調和した21世紀の時代を切り拓き、世界の平和と人類の持続的な発展に資するとの認識に立ち、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置付けをもって改革に取り組むこととし、その拠って立つ理念と目標を金沢大学憲章として制定する。

教育

- 1 金沢大学は、各種教育機関との接続、社会人のリカレント教育、海外からの留学、生涯学習等に配慮して、多様な資質と能力を持った意欲的な学生を受け入れ、教養と専門とを結合した学部教育と、学際性や専門性の高い大学院教育を実施する。
- 2 金沢大学は、学生の個性と学ぶ権利を尊重し、自学自習を基本とする。また、教育改善のために教員が組織的に取り組むFD活動を推進して、専門知識と課題探求能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材を育成する。

研究

- 3 金沢大学は、真理の探究に関わる基礎研究から科学技術に直結する目的型研究に至る卓越した知の創造に努め、それらにより新たな学術分野の開拓と、技術移転や新産業の創出等に資することで積極的に社会に還元する。
- 4 金沢大学は、人文社会、自然科学及び医学の学問領域や、基礎と応用など研究の性格にかかわらず、構成員が学問の自由と健全な競争をもって自主的・自律的に研究を進める環境を整備する。また、萌芽的研究や若手研究者の育成に努め、常に新しさに挑戦し個性を引き出す体制を維持する。

社会貢献

- 5 金沢大学は、本学の有する資源を活用し、地域における学術文化の発展と教育・医療・福祉等の基盤づくりに貢献し、北陸さらには東アジアにおける知の拠点として、グローバル化の進む世界に向けて情報を発信する。
- 6 金沢大学は、入学前から卒業後に及び学生教育の拡大、研究成果である知的財産の発掘・管理と社会への積極的な還元、さらには高度先端医療の発展と普及に努め、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の責務に応える。

運営

- 7 金沢大学は、それぞれの部局が専門性と役割に基づき独自性を発揮しつつも、全学的にそれらを有機的に関連させ、自主的・自律的に運営する。また、計画の達成度を評価し、組織・制度の見直しを含めて不断の改革を進める。
- 8 金沢大学は、国からの交付と自己収入から成る資金を厳格かつ計画的に活用するとともに、人権を尊重し、すべての構成員が職務に専念できる安全な環境を提供する。また、公共に奉仕する国立大学法人としての社会的な説明責任に応える。

目

次

国立大学法人金沢大学スタート	1	講演会「最近の医療事故における司法の判断	
大学憲章	2	～厳しさを増す司法の眼～」を開催	8
運営諮問会議の幕閉じる	3	日本化学会第18回若い世代の特別講演会	
工学部 第5回教育方法改善 (FD) シンポジウム開催		レクチャーシップ賞	8
ベストティーチャーを表彰	3	新任部局長等	9
21世紀COEプログラム国際シンポジウム開催	4	外国語教育研究センター第3回研究会	9
第2回金沢大学FD研究集会	4	2004年度金沢大学公開講座	10
地域経済塾公開戦略会議	4	スーパーサイエンスハイスクール	10
第2回北陸地区国立3大学教養教育研究会	5	ミニ講演 バレーボール・オリンピック	
第1回金沢大学大学教育セミナー	5	金メダル監督に見る指導者像	11
大学教育開発・支援センターが共同学習会	5	公開講座	11
世界に向けて大きくはばだけ		子供たちがジャグリングに挑戦	11
－ 2,596名に学位記・修了証書授与 －	6	留学生日本の伝統文化に触れる	11
長い間、お疲れさまでした － 退職記念式 －	7	春を迎える里山	12
南京大学と交流協定締結	7	附属病院でスプリングコンサート	12
林学長、フォーミュラー研のマシンに試乗	8	合格者発表	12
経済学部、韓国湖西大学校経営学部と協定	8	編集後記	12

トピックス

運営諮問会議の幕閉じる

3月25日、今回で最後となる運営諮問会議（会長、石原多賀子金沢市教育長）が金沢市内のホテルで開かれた。同会議は平成12年度に設置、これまでに計9回の会議が行われ、委員の方々から多くの貴重な意見をいただいた。法人化により同会議が廃止されたため、この日の会議が最後となった。

会議では、委員から「経営的手法は必要だが、大学には独自の使命がある」「朝令暮改も大いに結構。失敗を恐れずに取り組んでほしい」「事務職員の資質向上に期待したい」など、本学への激励の言葉が述べられた。

委員の意見に耳を傾ける部局長ら



あいさつする石原会長



工学部 第5回教育方法改善（FD）シンポジウム開催 ベストティーチャーを表彰



学部長から表彰状を受け取る藤田教授



工学部は3月9日、総合研究棟を会場に5回目となるFDシンポジウムを開催した。今回のシンポジウムでは、今年度から創設した学生が選ぶ教官表彰制度により選ばれたベストティーチャーを表彰した。

ベストティーチャーとして表彰されたのは、共通基礎科目から野村明人講師、実験・実習・創成科目から松井良雄助手、専門科目から藤田政之教授、石田啓教授、政田浩光元教授の計5名。学生が選んだ理由には、「声が大きく明瞭。板書がわかりやすい。重要事項を丁寧に教える。講義内容の位置付けが明確」などの理由が挙がった。

工学部では、今回表彰を受けた教員の公開授業を行い、各教員の授業改善に役立ててもらおうとしている。

シンポジウム開催にあたり、あいさつする岡島厚工学部長

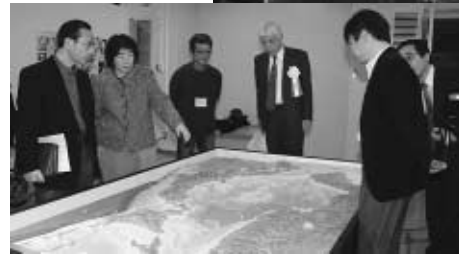
3月のニュース

21世紀COEプログラム国際シンポジウム開催

21世紀COEプログラム「環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測」は、2月29日から3月3日、いしかわ国際協力研究機構（IICRC）及び国際連合大学高等研究所との共催で、「大気汚染・都市固形廃棄物管理と政策」をテーマに国際シンポジウムを開催した。このシンポジウムは同プログラムがこれまで進めてきた研究の成果を発表するとともに、IICRCとの研究協力体制を強化し、環日本海域の環境保全に取り組もうと開かれた。

シンポジウムでは、市民にも公開の都市廃棄物に関する講演やパネルディスカッション、研究者対象の各講演、同プログラムの活動についての外部評価、事業概要を紹介するパネル展示などが行われた。

市民にも公開された
パネルディスカッション



パネル展示を見学する林学長＝2月29日、石川県立生涯学習センター

第2回金沢大学FD研究集会

3月13日金沢市内のホテルで、教育委員会及び教育改革推進専門委員会（FD部会）の主催により、第2回金沢大学FD研究集会が開催され、本学の教職員、学生、非常勤講師、北陸三県の高等教育機関の教員ら124名が出席した。

「教育方法の改善－厳格な成績評価を巡って－」をテーマに、諸星 裕 桜美林大学副学長の基調講演「国立大学法人における大学のあり方」が、続いて4名の教員から成績評価に関する取り組み等、各部局のFD活動について報告があり、活発に討論された。



基調講演する諸星氏



円卓を囲み討論する参加者＝金沢大学サテライト・プラザ集会室

地域経済塾公開戦略会議

経済学部地域経済情報センターは3月7日、フォーラム「地域経済塾公開戦略会議－つよい北陸経済をつくる大学の役割とは－」を開催した。これは、昨年11月に開講した地域経済塾の成果を踏まえ、つよい北陸経済をつくるために地域経済塾や大学がどのような役割を果たすべきかを議論しようとしたもので、約30名の参加者が2時間にわたり議論した。円卓をかこみ全員参加型で自由に討論し、「政策や戦略を考えると最後の抛り所は学問。大学にしかできない深い学問的成果を地域に還元してほしい」などの意見が出された。

第2回北陸地区国立3大学教養教育研究会

3月27日、北陸地区国立3大学教養教育実施組織連絡協議会の主催により、「国立大学法人化後の教養教育の在り方」をテーマとする第2回北陸地区国立3大学教養教育研究会が開催され、同協議会構成メンバーである富山大学、福井大学及び金沢大学から教養教育に携わる教職員18名が出席した。

3大学が連携して行う双方向遠隔授業システム事業をはじめ、各大学における問題点、共通する課題等について活発に意見交換が行われ、国立大学法人化後も北陸地域における教養教育の改善・充実に向けて協力・連携していくことが確認された。



フリートークする出席者＝金沢市内のホテル



シンポジウムで参加者と意見を交すパネリスト＝総合教育棟会議室

第1回金沢大学 大学教育セミナー

大学教育開発・支援センターは3月1日、「学生の立場からの教育改革」をテーマに、第1回大学教育セミナーを開催し、学内外から60名余りの教職員、学生が参加した。

大学基準協会前会長の大南正瑛氏による「いま日本の高等教育に思うこと」と題する講演の後、福井大学教員1名、本学教員2名による教育改善の実践例が報告され、それらに基づくシンポジウムでは活発な意見交換が行われた。

大学教育開発・支援センターが共同学習会

授業方法の改善、学生募集及び大学広報をテーマに、大学教育開発・支援センター主催による共同学習会が3月22日から26日にかけて全10回開催された。同センター 西山宣昭助教授による「インターネットを用いた授業素材の収集」、附属高校 山本吉次教諭による「高等学校社会における授業の工夫」、東京女子体育大学 入澤 充助教授による「大学広報と教職員の役割」等、教育改善のための具体的取組みの報告があり、活発な討論を行った。

なお、共同学習会は今後毎週木曜日に開催される予定である。



質問を受ける入澤助教授（右）（第7回「学生募集戦略」）
＝総合教育棟A11演習室

卒業

世界に向けて大きくはばたけ — 2,596名に学位記・修了証書授与 —



式典の様様

学部生の代表で答辞を述べる
教育学部 上野景子さん



3月25日、金沢市観光会館で平成15年度金沢大学学位記・修了証書授与式が挙行政され、学部生1,838名、大学院生719名、専攻科16名、別科23名、計2,596名に学位記又は修了証書が授与された。

林学長は、卒業生らに向け「地球人として高邁な意識を持ち、国を拓いていくのは自分自身であることを自覚するよう」また、「自然に恵まれた金沢での学生生活を胸に刻み、世界に向けて大きくはばたくよう」と告辞を贈った。

学長告辞の全文は、本学ホームページに掲載

<http://www.ad.kanazawa-u.ac.jp/president/2003sotugyo/sotu.html>

また、式では卒業生らのうち、論文等が優れていると認められる者、本学の課外活動の振興に顕著な功績があったと認められる個人や団体に学長表彰が贈られた。

表彰者の一覧は次のとおり。

論文等が優れていると認められる者

教育学研究科	玉瀬 みを
自然科学研究科博士前期課程	
〃	戸塚 佳子・青木 卓也
〃	岩崎 貴之・丹羽 一将
〃	宮越 純一・川上健太郎

本学の課外活動の振興に顕著な功績があったと認められる個人

教育学部	沢野咲知子・青木 勇
〃	前田 泰宏
工学部	今井 剛

本学の課外活動の振興に顕著な功績があったと認められる団体

医学部	合唱団代表	松本 智司
工学部	吹奏楽団代表	藤原 健輔
医学部	囲碁部代表	重成 憲爾
教育学部	剣道部代表	守屋 匡人



式を終えて胸上げされる
卒業生



代表で学長表彰を受ける
教育学部 沢野咲知子さん



記念撮影

卒業生・修了生数		
1 卒業生数		
文 学 部		164名
教 育 学 部		215名
法 学 部		202名
経 済 学 部		179名
理 学 部		188名
医 学 部		307名
薬 学 部		79名
工 学 部		504名
合 計		1,838名
2 修了生数		
(1) 大学院		
大学院文学研究科(修士課程)		31名
大学院教育学研究科(修士課程)		39名
大学院法学研究科(修士課程)		9名
大学院経済学研究科(修士課程)		6名
大学院医学系研究科(博士前期課程)		60名
大学院自然科学研究科(博士前期課程)		463名
大学院医学系研究科(博士課程)		33名
大学院社会環境科学研究科(博士課程)		9名
大学院自然科学研究科(博士後期課程)		69名
合 計		719名
(2) 専攻科		
特殊教育特別専攻科		16名
(3) 別 科		
養護教諭特別別科		23名
卒業生・修了生総数		2,596名

長い間、お疲れさまでした — 退職記念式 —

3月29日、平成15年度末で退職する教職員の退職記念式が行われ、退職者42名が出席した。式では、永年勤続者表彰、感謝状授与等が行われた。

この日表彰等が行われたのは、金沢大学永年勤続者表彰34名、金沢大学感謝状授与8名、文部科学省永年勤続者表彰状伝達3名、定年退職者8名の計53名。



記念式に出席した退職者ら＝アカンサスインターフェイス



退職者を代表して謝辞を述べる自然科学研究科和田敬四郎教授
＝事務局大会議室

退職記念講演

3月で退職した教員の記念講演会が工学部とがん研究所で行われ、それぞれ170名、90名の聴衆が、最後の講演に聴き入った。



工学部 川村満紀教授
「研究の回顧－電子顕微鏡とASR－」
＝2月21日、工学部秀峯会館中会議室



工学部 畑 朋延教授
「音と光と薄膜の32年」
＝同左



がん研究所 磨伊正義教授
「胃がん撲滅の悲願を込めて－24年間の軌跡－」
＝3月11日、医学部記念館

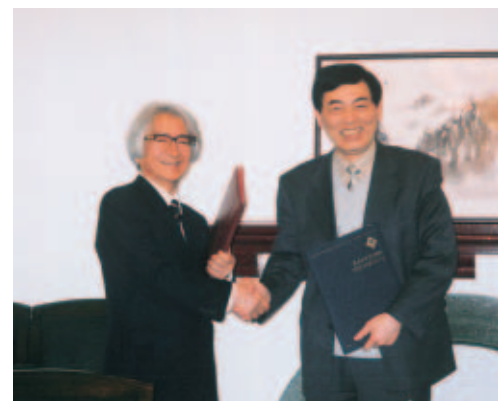
南京大学と交流協定締結

本学は先月、中国南京市にある南京大学と大学間交流協定を締結した。

3月9日に畑安次副学長、朝倉信裕事務局長らが南京大学を訪問し、交流協定を締結したもので、陳 駿副学長、陳 雲雲教務院院長、封 淑珍海外教育学院副院長、从 从外事弁公室副主任、朱 小易国際交流科長等と今後の交流について、意見交換を行った。

南京大学は、2000年2月に石川県8大学が複数大学間友好交流協定を締結した江蘇省8大学の中でも中心大学であると

ともに、中国の国家重点大学である211工程の中でも特別な9つの大学の1つとして、清華大学、北京大学などとも中央政府から認められている中国屈指の大学である。これにより、本学の大学間交流協定締結機関は37機関となった。



握手する畑副学長と陳副学長 ＝南京大学

3月のニュース

林学長，フォーミュラー研の
マシンに試乗

3月31日，林学長が金大フォーミュラー研究会（F研）を訪問し，F研が開発したマシンの試乗体験を行った。同研究会は，第1回全日本学生フォーミュラー大会において総合成績6位の実績を上げており，今年の活躍が期待されている。

レーシングスーツにヘルメットを装備した林学長は，1度の試乗ではもの足りなく再度の試乗を行って，つかの間のレーサー気分には浸っていた。



「次は当然，優勝だね」2003年大会参戦車両KF2003に試乗後の林学長の第一声。激励に応えるべく，一同決意を新たにした。
=工学部

経済学部，韓国湖西大学校
経商学部と協定

経済学部は3月27日，韓国牙山市にある湖西大学校経商学部と部局間交流協定を締結した。湖西大学校は1978年に創立された私立大学で，1998年に工学部と部局間交流協定を締結している。これにより，本学の部局間交流協定締結機関は39機関となった。

湖西大学校経商学部長 Sam-Saeng Hwang教授と
渡邊 力経済学部長=湖西大学校

講演会
「最近の医療事故における司法の判断
～厳しさを増す司法の眼～」を開催

附属病院では3月3日，医療事故防止に関する研修会の一環として，丸の内法律事務所 弁護士 若杉幸平 氏を講師に招き，「最近の医療事故における司法の判断 ～厳しさを増す司法の眼～」をテーマに講演会を開催し，医療従事者約250名が参加した。



講演する若杉氏=医学部臨床第一講義室

若杉氏は，医療訴訟の状況の変化，医療側と患者側の意識の違いや情報提供の重要性，提訴してから判決までに長い期間を要すること，時代とともに司法の判断も変化している現状など，具体的な事例を交えて講演した。

日本化学会
第18回若い世代の特別講演会
レクチャーシップ賞

工学部小西玄一助手は日本化学会第18回若い世代の特別講演会レクチャーシップ賞に選ばれ，3月26日開催の第84回日本化学会春季年会で表彰された。小西助手らのグループで展開している機能性高分子の合成研究が評価されたもの。



小西助手

部局長等紹介

新任部局長等

任期はいずれも平成16年4月1日～平成18年3月31日



文学部長
久保田 功



教育学部長
片桐 和雄



法学部長
前田 達男



経済学部長
横山 壽一



理学部長
中尾慎太郎



大学院社会環境科学研究科長
伍賀 一道



大学院法務研究科長
畑 安次



医学部附属病院長
小泉 晶一



共同研究センター長
村上 清史(がん研)



外国語教育研究センター長
矢淵 孝良(外セ)



自然計測応用研究センター長
柏谷 健二(計測)



大学教育開発・支援センター長
青野 透(大教セ)



環境保全センター長
森 茂(自然研)

外国語教育研究センター第3回研究会



説明する山里教授(左)と野田教授(右)
=総合教育棟会議室

外国語教育研究センターでは3月5日、立教大学の野田研一教授と琉球大学の山里勝己教授を講師に迎え、「立教大学と琉球大学における英語教材開発について」と題して本年度第3回目の研究会を開催した。野田教授は「立教大学全学共通カリキュラム」におけるカリキュラム設計と運営方法及びリーディングの統一教材の作成過程について報告し、大里教授は琉球大学の統一教科書作成の歩みを、大学独自の創立の歴史にふれながら説明した。

発表後は、統一教材の開発・使用の功罪について参加者と意見交換を行った。

公開講座紹介

2004年度金沢大学公開講座

講座名	主任講師	開催場所	開催時期
古典文学の受容と新生	文学部 上田 正行	大学教育開放センター	4月24日～6月19日
音楽の楽しみ方いろいろ(Ⅳ) -いろいろな楽器を楽しんでみよう-	教育学部 篠原 秀夫	教育学部芸術棟音楽ホール	5月8日～5月15日
美術へのいざないⅧ 大人の造形遊び -デジタルカメラを使ったイメージビデオ制作-	教育学部 鷺山 靖	サテライト・プラザ	5月15日～5月16日
大きな宇宙と小さな素粒子	自然科学研究科 村上 敏夫	サテライト・プラザ	5月29日～7月17日
九谷焼 - 伝統と創造 -	文学部 佐々木達夫	大学教育開放センター	6月2日～6月30日
暮らしと法	法務研究科 尾島 茂樹	大学教育開放センター	6月19日～7月17日
金沢の伝統文化と茶道	自然科学研究科 加納 重義	工学部秀峯会館	7月10日
コードネームを使った簡単なピアノ伴奏講座 初級コース	教育学部 篠原 秀夫	教育学部芸術棟音楽演習室・ 音楽ホール・練習室	7月10日～7月17日
幼児教育の現場から考える子育て学	教育学部 大久保英哲	金沢市教育プラザ富樫	7月17日～9月4日
ミツバチの不思議と趣味の養蜂	自然科学研究科 山田 敏郎	工学部秀峯会館	7月24日
脳細胞遺伝子学講座	医学系研究科 東田 陽博	医学部講義室, 脳細胞遺伝子学講座	8月19日～8月20日
脳の世界への招待状 - 画像診断技術の最前線 -	医学部保健学科 川井 恵一	医学部保健学科	8月28日～10月9日
薬局見学・体験ツアー	自然科学研究科 鈴木 永雄	薬学部「くすりと健康プラザ」 及び各施設	9月2日～9月30日
統一から13年経った旧ドイツ民主共和国の人々の暮らし	外国語教育センター 菊池 悦朗	大学教育開放センター	9月4日～10月9日
コードネームを使った簡単なピアノ伴奏講座 中級コース	教育学部 篠原 秀夫	教育学部芸術棟音楽演習室・ 音楽ホール・練習室	10月9日～10月16日
ケミカルマジックを演じてみよう!	自然科学研究科 染井 正徳	薬学部薬化学研究室, 大学教育開放センター	10月16日～11月3日
暮らしに生きる大学の研究 - シリーズⅠ -	大学教育開放センター 鈴木 漢(企画担当)	サテライト・プラザ, 大学教育開放センター	10月16日～11月6日
美術へのいざないⅨ - 人物油彩画 -	教育学部 大村 雅章	教育学部芸術棟3階 第2絵画室	10月20日～11月24日
生涯スポーツ入門 -豊かなスポーツライフ、生涯スポーツ社会の実現に向けて-	大学教育開放センター 鈴木 漢	サテライト・プラザ	11月10日～12月1日
教育と法	法務研究科 畑 安次	サテライト・プラザ	2月18日～3月18日
美術へのいざないⅩ - 塑造による頭像の制作 -	教育学部 江藤 望	教育学部第2彫刻教室	2月26日～3月20日

2004年度から、申込方法と受講料が大幅変更

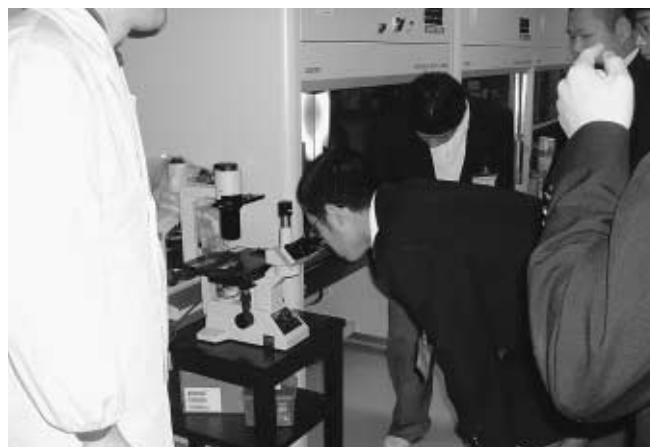
- 申込方法の変更：銀行振込と専用ハガキ投函（公開講座専用パンフレット綴じ込み）による申込み
- 受講料（額）の変更：大幅に安くなり、1講座あたり1,500円から4,800円。高校生はさらに安くなります。

お問合せ：金沢大学大学教育開放センター TEL076-264-5272～3, FAX076-234-4045

E-mail kaihou@ad.kanazawa-u.ac.jp ホームページ <http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/kaiho.c/koukaikouza.html>

スーパーサイエンス ハイスクール

3月8日、文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール」の指定を受けた石川県立金沢泉丘高等学校の理数科1年生20名が薬学部を訪問した。当日は、新築まもない自然科学研究科1号館薬学プレゼンテーション室で、石橋弘行薬学部長から「薬学の現状と将来」と題する講義を受けた後、移転中の薬学部各研究室の施設見学を行い、自然科学に対する興味と先端科学の知識を身につけた。



施設見学で、顕微鏡を覗き込む高校生

大学開放

ミニ講演 バレーボール・オリンピック 金メダル監督に見る指導者像

- 月 日：3月20日
- 講 師：鈴木 漠 大学教育開放センター教授
- 場 所：金沢大学サテライト・プラザ講義室
- 来場者：21名



公開講座

- 市民のための哲学入門（2）
- 主任講師：教育学部岡崎文明教授

＝3月2日，大学教育開放センター講義室



子供たちが ジャグリングに挑戦

本学学生と市民との交流を目的に3月20日，ジャグリングアンドマジックサークル（JMC）が市内の子供たちにジャグリングを教える交流会が開かれた。

まず，JMCのメンバーが妙技を披露した後，参加した子ども達や保護者などが，お手玉やクラブなどに挑戦した。

JMCメンバーの親切丁寧な手ほどきに，参加者も時を忘れ，和やかなひと時を過ごした。



さまざまな技に挑戦する
子どもたち
＝金沢大学サテライト・
プラザ集会室

留学生 日本の伝統文化に触れる

3月3日から2泊3日で，奈良，伊勢・鳥羽，彦根方面への外国人留学生実地見学旅行が行われ，留学生たちは，日本古来の建築物を見学し，思い思いに記念撮影をするなど，日本の歴史と伝統文化の一端を実地に体験した。



法隆寺を見学＝3月4日

春を迎える里山

3月13日の定期活動では、参加者がいくつかのグループに分かれて里山を見回った。

キクバオウレンやショウジョウバカマなどが咲く春の林道には、雪の重みで折れた木の枝がたくさん転がり、竹林にも折れた竹が乱雑に散らばっていた。冬の爪跡は予想以上にひどいようであった。一方、北谷では水田の増設を目指して開墾や歩道整備が始まった。春を迎えて、里山はにぎやかになっていく。



北谷入口に石を敷いて春を迎える

附属病院で スプリングコンサート

附属病院は3月23日、入院中の患者のための「スプリングコンサートin2004」を開いた。本学学生サークルのJMCによる「マジックショー」、アカペラサークルMeloMeloによる「魅惑のハーモニー」、出演した学生サークル全員と患者との合唱による「みんなで歌おう」の3部構成で行われた。

「みんなで歌おう」では、会場を埋めた約130人の患者と家族、看護師も一緒になって歌い、さわやかな歌声で春の午後のひとときを楽しんだ。



MeloMeloによる「魅惑のハーモニー」
＝附属病院 病棟カンファレンスルーム

合格者発表

平成16年度学部入学選抜試験については、3月8日に前期日程の合格者1,423人が、同22日に後期日程367人がそれぞれ発表された。8日の前期日程の発表では、抜けるような青空の下、アメリカン・フットボール部員の胸上げで合格者が宙に舞った。



前期日程合格者発表＝大学会館前

編 集 後 記

満開の桜の中、金沢大学の新入学生を迎え学内も活気づいてきました。

それに先立ち4月1日から本学は新しい「金沢大学」としてスタートしましたが、法人化にあたって様々な準備をそれぞれ不眠不休で取り組んだ教職員の皆さんご苦労様でした。これからは、本学の歴史と伝統を継承しつつ「金沢大学憲章」の精神の下、新一年生のように清新な気持ちで大学改革に取り組んで行くことが求められています。

今後も紆余曲折があるかもしれませんが、石川県民ばかりではなく日本全国から「さすがは金沢大学」と言われるよう怯むことなく前を向いて進み、新しい「金沢大学」の情報発信をしていこうではありませんか。(Cha)

平成16年4月16日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学広報室

TEL 076-264-5024
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS”(キューピーズ))
(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。